

## 第 588 回 役員会(臨時) 議事概要

1 日 時 令和 5 年 7 月 10 日 (月) 9 時 30 分～10 時 00 分

2 場 所 Zoom 会議

3 出席者 構成員 7 名：

牛木学長，川端理事，坂本理事，澤村理事，末吉理事，西田理事，  
塚本理事

陪席者 3 名：

富田特命理事，田代監事，逸見監事

### 4 審議事項

#### (1) 令和 6 年度国立大学法人運営費交付金の概算要求事項「教育研究組織改革分」(案) について

令和 6 年度国立大学法人運営費交付金の概算要求事項「教育研究組織改革分」(案) について、資料 1 に基づき審議が行われ、原案のとおり承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・資料 6 ページ目の「未来人材」というキーワードについて、大学院だけではなく、学部等においても使われるため、「先端」や「先進」などのワードを付けて、違いを出しても良いと思う。また、K P I としての博士前期（修士）課程修了生の博士後期（博士）課程への進学率が、低い目標値に設定されているように見えるので、表現に工夫が必要だと思う。
- ・進学率ではなく増加割合にする方法もあると思う。
- ・確かに、タイトルについては先端未来人材でも良いと思う。
- ・一般的には博士前期（修士）課程修了生の博士後期（博士）課程への進学率が 10 パーセント程度という認識を持たれていると思うので、それよりも低いと見られてしまうと思う。本来は内部進学率なので、違う割合になると思うが、そう見てもらえない恐れがあると思う。
- ・全体として、1 枚目が事業の構想、2 枚目が組織の内容ということで明確に切り分けられており、内容がクリアになったので、あとは細かい部分の見せ方だけだと思う。
- ・文部科学省からも、本組織整備の胆は大学院教学ユニットであると言われているので、この大学院教学ユニットを強調した形で記載している。
- ・大学院教学ユニットが胆だとした場合に、「総合知」と「グローバル」がキーワードとなると思う。P h D リクルート室としても博士人材と産業界のマッチングを行っていくことが記載されているが、国際産業界といった記載にすると新しい切り口に見えると思う。
- ・グローバル産業界という記載にしたいと思う。

- 他の大学院にはない新潟大学ならではの大学院改組を行えるような希望的または魅力的なものが含まれていると、組織として面白くなると思う。
- 大学院教学ユニットの総合知教育やグローバルな教育環境というワードはどこでも使っているような言葉なので、もう一つくらい特徴的な言葉を入れられれば良いと思う。
- 文部科学省もしきりに新潟大学の独自のものが一つでも入っていると良いとは言っている。組織とは違い内容の部分になってくるので、それを組織としてどう作っていくかが問題であると思う。
- 例えば、グローバル社会やグローバル産業での活躍といった部分については、日本でもまだできているところはないので、そういった部分を記載しても良いと思う。
- 「未来人材」というキーワードが分かりづらいので、グローカル人材といった、ローカル色もあるがグローバルを牽引するという印象にして、グローバルな総合知教育を地球規模の総合知教育に変えていけると良いと思う。
- グローバル産業と社会イノベーターという2つの柱を立てると、人文社会科学系も含んだ話にもなり、分かりやすくなると思う。全体を変える必要はないが、少しでもその部分を加えると、それに向けた総合知を備えた大学院という感じにもなり、それが一番求められているところでもあると思う。
- 学部の方でも未来教育というキーワードを使っており、「未来」というワードが重複しているため、異なるワードのほうが良いかもしれないが、グローバル人材としてしまうと内容自体も変えていかなければならないと思う。
- ローカルとグローバルを掛け合わせた「グローカル」というワードでも良いかもしれない。また、新潟大学ならではの日本酒学センターや佐渡自然共生科学センターなども含まれているので、グローカルリーダー人材などの表現でも良いと思う。
- 統一入試のシステムが構築されて、入学しやすくなると、学生としても自由に文系から理系の修士などにも入れることになるので、この改組自体があまり必要なくなるかもしれない。むしろこの統一入試で学生を自由にするような大学院の方が現実的な印象も受ける。
- 研究科の形そのものが問題ではないので、最終的には定員充足率が上がり、魅力的なものになれば良いと思う。
- 未来社会共創ラボの内容については大きな変更点もなく、問題ないと思う。
- 未来ビジョン実現本部の直下にトップダウンの共創ラボをいくつか設置することを一つの足掛かりとして、カーボンニュートラルなども進めていくという作りになっている。それについては文部科学省には理解してもらっているので、災害医療分野の中にテーマリーダーや学際研究リーダーを配置するという内容では良くないと言われても当然だと思う。あくまで未来ビジョン実現本部における共創ラボの学際研究リーダー等の人材を配置する形で進めて、結果的にそれが災害医療の人材だったとしても、その部分を明確にして、未来ビジョン実現本部に共創ラボを幾つか作っていくという目線で組織整備を行っていく必要があると思う。

- ・当初、テーマリーダーの教員を災害医療分野に配置することを想定していたが、全体の学際研究をまとめるテーマリーダーの教員として要求することとし、未来社会共創ラボのラボリーダー等の配置も含めて要求していきたいと思っている。
- ・資料3ページ目の組織整備に関わるKPIとして、入学定員の80パーセントの学生が履修するとされているが、半端な数値に見えてしまう。例えば、必修にするであったり、入学定員の100パーセントにするといったように記載できると良いと思う。
- ・文部科学省への説明でも、医学部や歯学部は除いているということで納得してもらっている。80パーセントでもかなり難しい数値であると思う。
- ・概要図にはどの学部の入学定員とも書いていないので、医学部及び歯学部を除くと100パーセントであるという記載できると良いのではないか。
- ・概要図の中で記載することは難しいが、文章中には記載されている。
- ・資料の4ページ目の高年次キャリア教育の記載の中で、各科目の単位数も記載されているが、少ない印象を持たれる可能性もあるので、削除したほうが良いと思う。
- ・単位数については削除したいと思う。